農場の防疫体制を再点検しましょう

牛サルモネラ症が増える時期

令和3年の十勝管内における牛サルモネラ症発生戸数と月別平均気温を図１に示しました。

暑さのピークが過ぎた9月以降に、牛サルモネラ症の発生戸数が増加しています。

今一度農場の防疫体制を再点検して、牛サルモネラ症を予防しましょう。

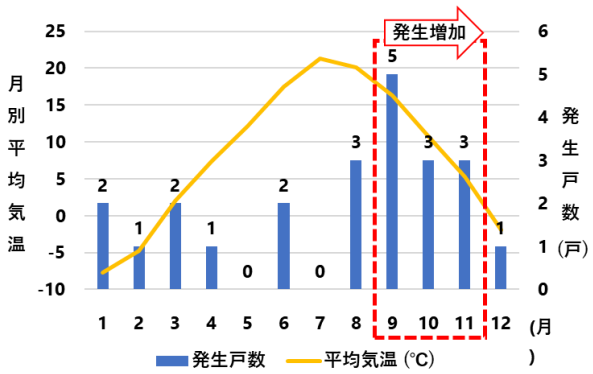

図１：R3 十勝管内牛サルモネラ症発生戸数と月別平均気温

（データは気象庁（帯広観測点）・十勝家畜保健衛生所より）

牛サルモネラ症予防のために

（1）飼養管理の見直しによる健康な牛づくり

図２に示したように、牛サルモネラ症を発症する牛は泌乳前期に多くなっています。このため、**分娩前後にエネルギー不足にしない飼養管理**、**常にエサがある飼槽管理**が重要になります。

乳脂率（粗飼料採食量の指標）や、乳タンパク質率（エネルギー過不足の指標）が下がっていないか？これからの時期は特に注意深く乳検や旬報をチェックして、早めに飼養管理を見直し、発症を予防しましょう。

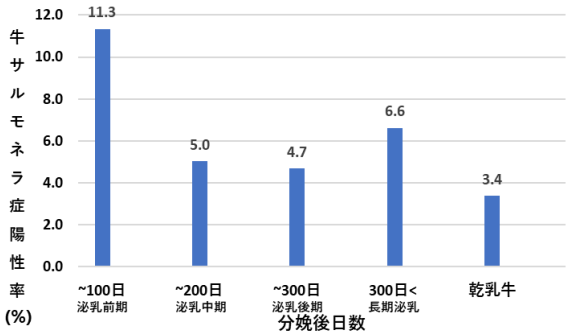

図２：牛サルモネラ発生農場における乳期別の糞便からの分離率（道立畜試・根釧農試 2008）

（2）農場出入口への消石灰散布

農場には日ごろから様々な人や車両が出入りします。長靴やタイヤ等から農場内にサルモネラ菌が持ち込まれることを防ぐため、農場の出入口には消石灰を散布しましょう。

散布量の目安は **0.5～1kg/m²** です（写真１）。

1kg/m² の消石灰とは、長靴で踏んだ跡やタイヤ痕がくっきりと残り、その下の地面やアスファルトが見えないほどの量です。

大型のトラックでもタイヤ全体に付着するように**横幅・奥行き 3～4m**、の範囲に散布しましょう（図３）。

少なくとも**週に1度**、雨や強風の後で地面やアスファルトが見えてきてしまった場合には、速やかに散布しましょう。

写真１：1kg/m² の石灰ベルト

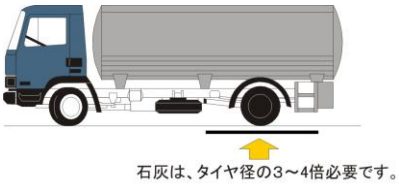

図３：石灰ベルトの奥行きとタイヤ径

（3）踏み込み消毒槽の設置

農場内にサルモネラ菌を広げてしまう原因は、主に人の足（長靴）によるものです。以下の３つのポイントを守って、踏み込み消毒槽を設置しましょう（写真2）。

① 長靴についた土や糞尿は消毒効果を低下させてしまうため、**汚れを十分に落としてから**消毒を行う。

② 消毒効果を維持するため、消毒液は**汚れたらすぐに交換する**（少なくとも１日に１回以上）。

③ 処理室など農場内の１ヵ所だけではなく、**施設毎**に設置する。

写真2 ： 汚れ落としのためのホース・ブラシと踏み込み消毒槽

（4）牛の口周りは常に清潔に

牛サルモネラ症をはじめ、ヨーネ病等、特に注意を要するものの多くは、**その病原体が牛の口から入ることによって感染します。**

牛の口が直接触れる飼槽・ウォーターカップ・水槽などは定期的に清掃作業を行い、常に清潔な状態を保つようにしましょう。

飼槽掃除のポイント

・ 特に、**飼槽と飼槽隔壁のすき間にはエサが残りやすい**ため、念入りに清掃を行う。

・ 夏場はエサが腐りやすく、飼槽が汚れやすいためできる範囲で飼槽掃除の回数を増やす。

繋ぎ牛舎の場合は、フリーストール牛舎と比べて、同じ場所に牛が居続けるため、**特に飼槽が汚れやすくなっている**ことに注意して清掃しましょう。

写真３： 清掃直後の飼槽

ウォーターカップ・水槽の清掃の手順

① ウォーターカップ・水槽内の水をあらかじめ取り除いておく

↓

② 重曹をふりかけ、ブラシ等でよく擦り、汚れを十分に落とす

↓

③ カップ・水槽内を水で十分にすすぐ

写真4 ： ウォーターカップの清掃

文責 ： 十勝農業改良普及センター 十勝東北部支所（☎ ： 0156-25-4326）